

長野地区社会保障推進協議会ニュース

長野地区社保協は、社会保障についての相談窓口です。

社会保障制度の改善をめざして、労働組合、医療、福祉関連の諸団体、

市民団体、女性団体などが共同して運動をすすめる組織です。(活動地域：長野市、上水内郡)



市長選予定候補者アンケート

アンケート回答・土屋龍一郎氏

「子ども医療費助成 18歳まで」

「国保、介護保険料引き下げに、

活用できる基金は活用を」

長野地区社保協は、10月31日投開票の長野市長選挙にあたり予定候補者にアンケートを依頼しました。回答をいただいた土屋龍一郎氏の回答内容を紹介します。荻原健司氏からは、期日までにご回答をいただけませんでした。

アンケートの項目は大きく5つで、国民健康保険料、介護保険料、福祉医療給付制度、民生費、新型コロナウイルス感染症対策について回答を求めました。以下、土屋龍一郎氏回答です。

(1) 国民健康保険料について

① 国保料を引き下げするために取り組むこと、提案などをお聞かせください。

「国保加入者の医療費水準が高く、所得水準が低いことから国保料が総じて高くなっている状況があります。引き下げするためには、健康を保つこと、ジェネリックのような後発薬剤を優先して使うなど、医療費を低く抑えることが必要となってきます。健康を保つためには、介護予防とも関連しますが、運動などを生活に積極的に取り入れるなどにより維持することが必要です。そのためには、スポーツ施設の整備やスポーツすることの啓発などに取り組む必要があります。」

② 法定外繰入金削減を取り止め、繰入金を活用し国保料を引き下げることについて、どうお考えですか。

「反対：法定外繰入金を一般会計から回しているため、国保財政を見かけ上黒字化しているところもあり、これにより国保料を引き下げるとは根本的な解決にはなりませんし、将来に不安が残ると考えます。」

③ 国保基金を取崩して国保料を引き下げることについて、どうお考えですか。

「賛成：基金は不測の事態に備え積み立てたものであるため、活用できる部分については活用すべきと考えます。」

(2) 介護保険料について

① 介護保険料を引き下げするために取り組むこと、提案などをお聞かせください。

「介護保険料を引き下げた自治体は全国に90あると聞いています。これらの多くは介護予防事業（市民ボランティアや理学療法士などの指導のもとで、簡単なリズム体操、軽体操、筋力アップや転倒予防の運動教室、ストレッチ、イスに座ってできるエクササイズ、ストレッチ、ダンベル、セラバンドなどを用いた筋力アップを目的とした介護予防のための運動を行う）がたいへん重要になってきます。これら事業を行える環境の整備等に取り組む必要があります。」

② 介護給付費準備基金を活用して介護保険料を引き下げることについて、どうお考えですか。

「賛成：国保の回答と同じですが、基金は不測の事態に備え積み立てたものであります。しかし、活用できる部分もあると思いますので、制度を維持するうえで必要な金額をきちんと把握したうえで活用できるものは活用し、料金引き下げに使うことは可能であると考えます。」

(3) 福祉医療給付制度、特に子ども・障がい者の医療費について

① 子ども医療費窓口無料化の年齢拡充(18才年度末)についてどうお考えですか。

「賛成：子育ての負担を軽減するという意味では高校卒業する18歳まで年齢の拡充は必要だと考えておりますし、これは私の政策の中にも入れ込んであります。」

② 障がい者も医療費窓口無料化の対象とすることについてどうお考えですか。

「その他：手続きの煩雑さからすると、窓口無料化は障がい者だけでなく、すべてにおいて必要だと思います。しかし、無料化することにより生ずる弊害、例えばどんな状況でも常に医療機関へかかるため、費用が増大するなどの例もあることからこれに対する対策を考える必要があると思います。」

(4) 民生費の増額について

① 福祉施策の充実のため民生費を中核市平均並みに増額することについて、どうお考えですか。

「その他：私の政策の中は福祉政策拡充に関するものが多く含まれています。中核市平均といってもそれぞれの市で状況が異なりますので、単に平均とか増額ではなく、きちんと内容を確認し、市民に必要なものであれば予算付けしていくことは必要だと考えます。」

(5) 新型コロナウイルス感染症への対策について

① 新型コロナウイルス感染症への対策で、取り組むこと、提案などをお聞かせください。

「ワクチン接種では、希望する方がなるべく早くすべての人が受けることができることが重要であると考えます。そのためには量の確保や予約方法など再整備する必要があると思います。」

「選挙に参加し、

主権者としての力を発揮しよう」

長野地区社保協・会長 菅田敏夫

私たちの要請に応じて回答を寄せてくださった土屋龍一郎さんに感謝申し上げます。また、荻原健司さんから回答をいただけなかったことは大変残念です。いずれにしても、これからの長野市政で、私たちの願いや要求を実現するために、今度の選挙はとても大切です。回答については、社保協に結集する皆さんがその選択をする際の参考にしていただきたいと思います。

さらに、同じ日に衆議院選挙も行われることになりました。私たちは、新型コロナ感染拡大の中で、日本の医療体制や感染対策がいかに脆弱なものか痛感しました。これまで政府が進めてきた、社会保障制度の改悪で保健所や病床が減らされたため、緊急時に対応できなかったのです。感染者が自宅待機を強制され、救うべき命が救えない事態に私たちは、心を痛めました。そしてその原因が「自助」を強調し、政治の公的責任を放棄した政治にあったことは明らかです。

いのちと暮らしを守る政治、格差や貧困をなくす政治、うそやごまかしのないまともな政治に転換させましょう。選挙に参加し、主権者としての力を発揮しようではありませんか。